

適性試験スコアと法科大学院成績・司法試験合否との関連

- I) 適性試験と法科大学院成績の相関
- II) 適性試験と司法試験(2007〔H19〕～2011〔H23〕)の合否
 - a) 司法試験合格者の適性試験スコアは高い
 - b) 司法試験に早く合格する者の適性試験スコアは高い
- III) (参考) 入試成績と学業成績の相関関係を分析するための前提
 - a) 日本とアメリカ合衆国の入学者選抜制度の違い
 - b) 法曹養成プロセスと各種試験
 - c) 相関係数の選抜効果

適性試験管理委員会事務局 2012年12月6日

1

I) 適性試験と法科大学院成績の相関

適性試験成績と学業成績の相関係数(中央値)

	1年次必修科目成績との相関	全必修科目成績との相関
既修者課程	0.361	0.234
未修者課程	0.657	0.688
両課程	0.480	0.534

*法科大学院統一適性試験(JLF)採用の6校の2004(H16)～2005(H17)入学生データ

*選抜効果を修正した相関係数

*中央値とは学校単位の相関係数を大小順にならべた場合に中央に位置する相関係数の値である。偶数個の場合は中央の2つの値の平均をとる。

出典：法科大学院協会『適性試験成績と法科大学院学業成績との相関関係に関する調査研究報告書【追加分】』（2008年3月）

合衆国適性試験(LSAT)成績と 学業成績の相関係数(中央値)

	適性試験と1年次成績の相関
相関関係	0.39

* Law School Admission Council (LSAC)の相関研究プロジェクトに参加した全大学の2003年データ

* Law Schoolの1年次科目はほぼ必修科目のみ

出典：LSAC「LSAT(法科大学院統一試験)に関する相関研究シリーズ 第1年次の成績に関する報告書例」適性試験委員会編『法科大学院統一適性試験テクニカル・レポート2005』（商事法務、2006年）

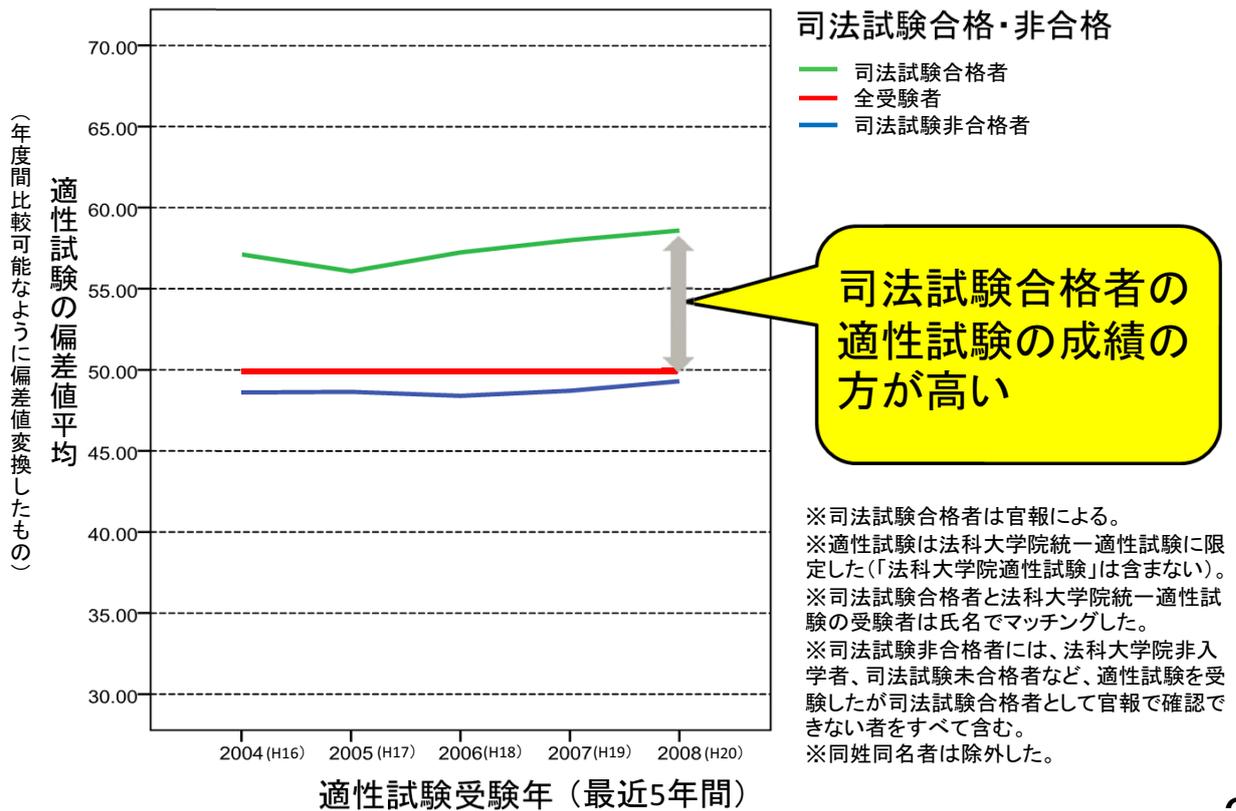
※適性試験成績と1年次必修科目成績との相関係数の中央値は「既修者」0.361、「未修者」0.657であり、適性試験成績と学業成績との間には相関関係がある。

※相関係数は各大学で異なる値をとる。これは入学試験制度やそこでの適性試験の重みなどの違いに影響されていることも一因である。
※合衆国の同種の研究でも適性試験と1年次成績は、学校によって異なるが一定の相関を示している。

2

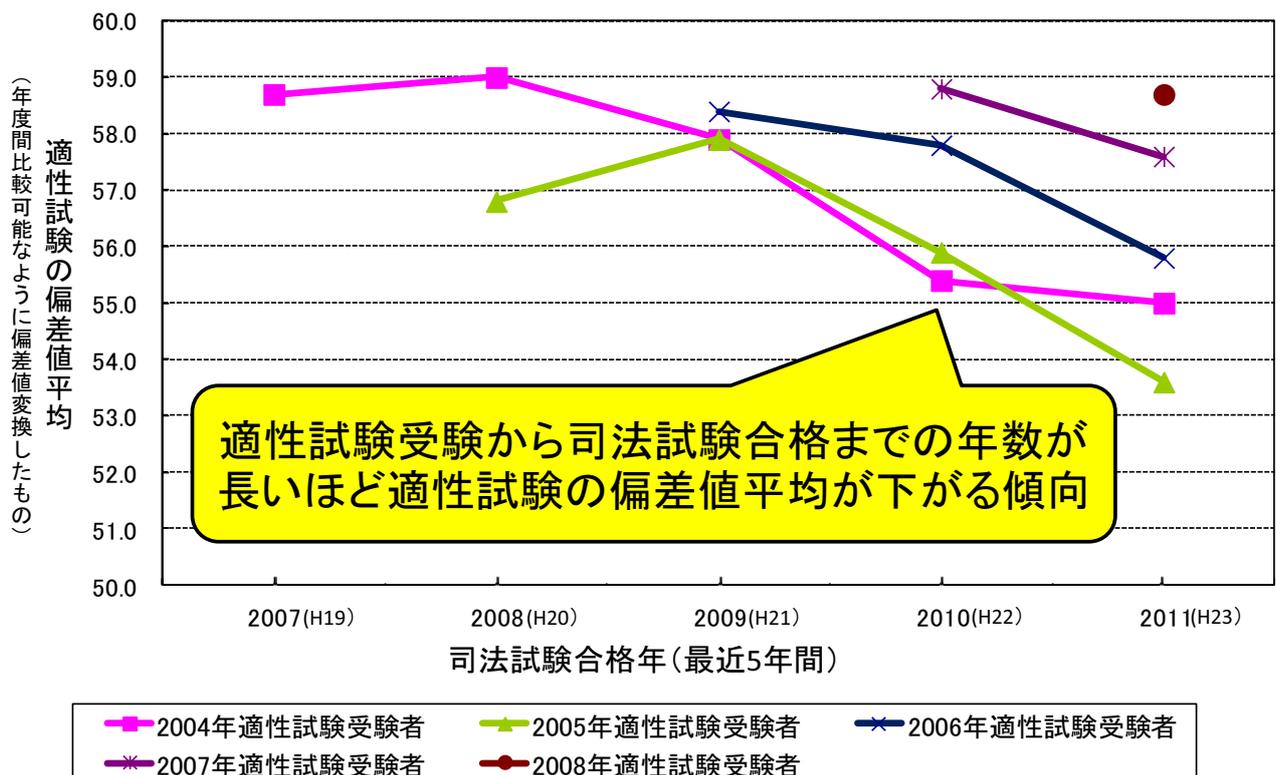
II) 適性試験と司法試験(2007〔H19〕～2011〔H23〕)の合否

a) 司法試験合格者の適性試験スコアは高い



3

b) 司法試験に早く合格する者の適性試験スコアは高い

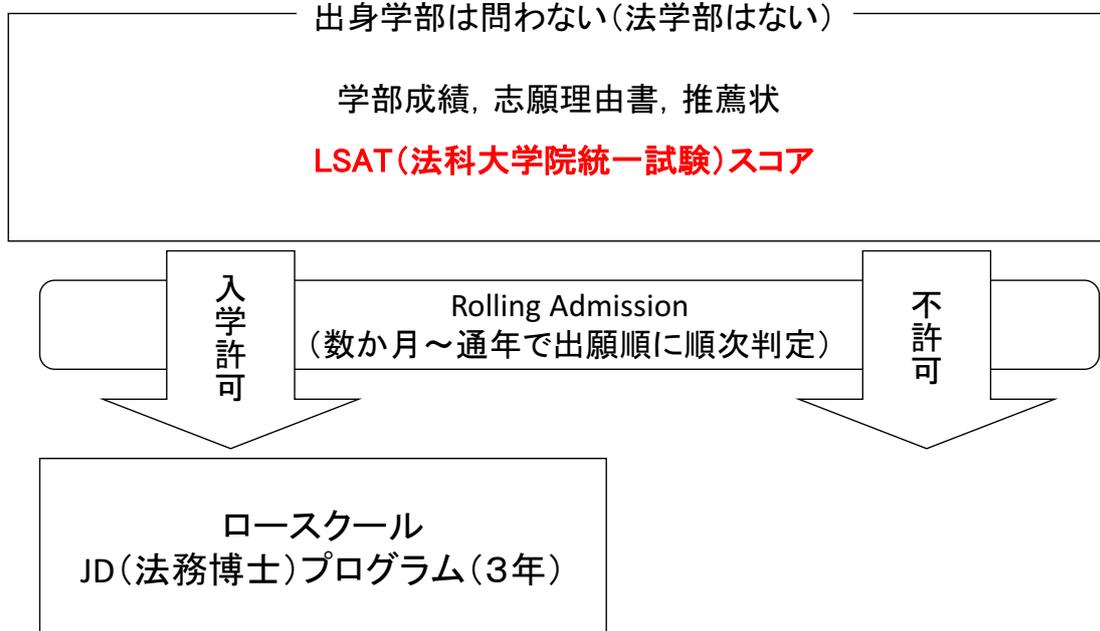


4

III) (参考)入試成績と学業成績の相関関係を分析するための前提

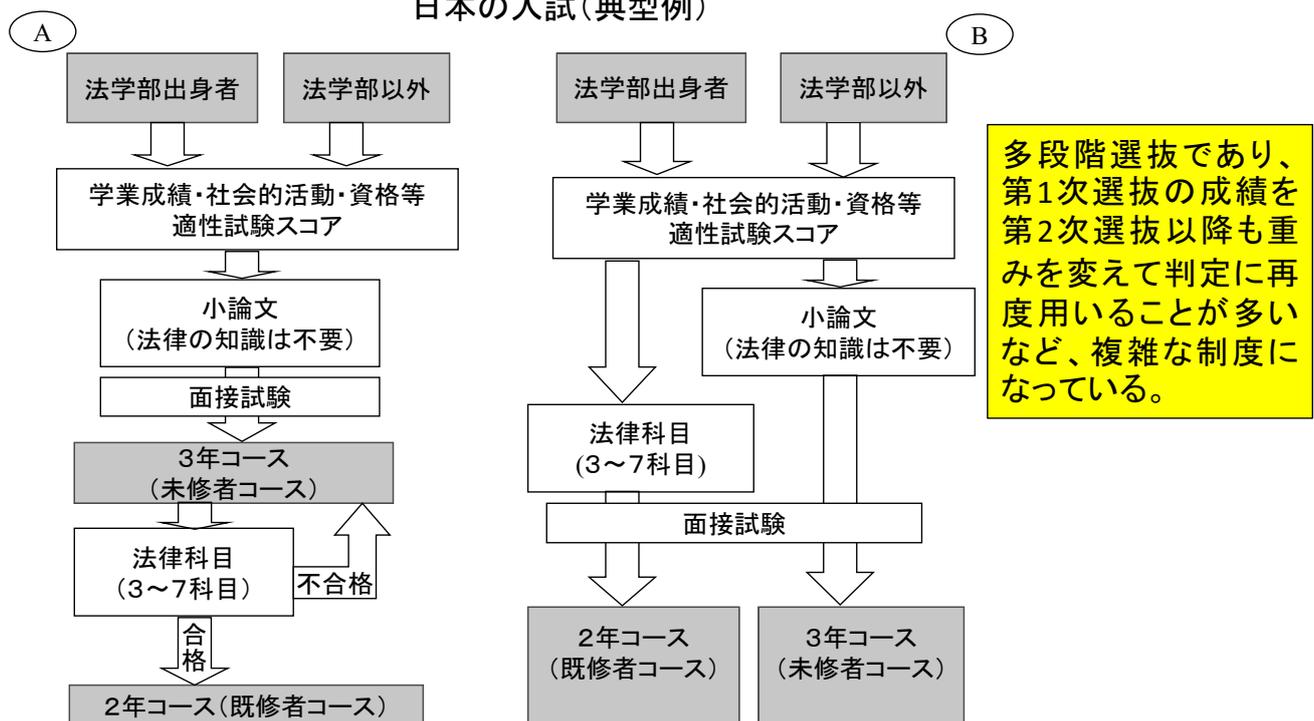
a-1) 日本とアメリカ合衆国の入学者選抜制度の違い

米国のロースクール入学者選抜(典型例)

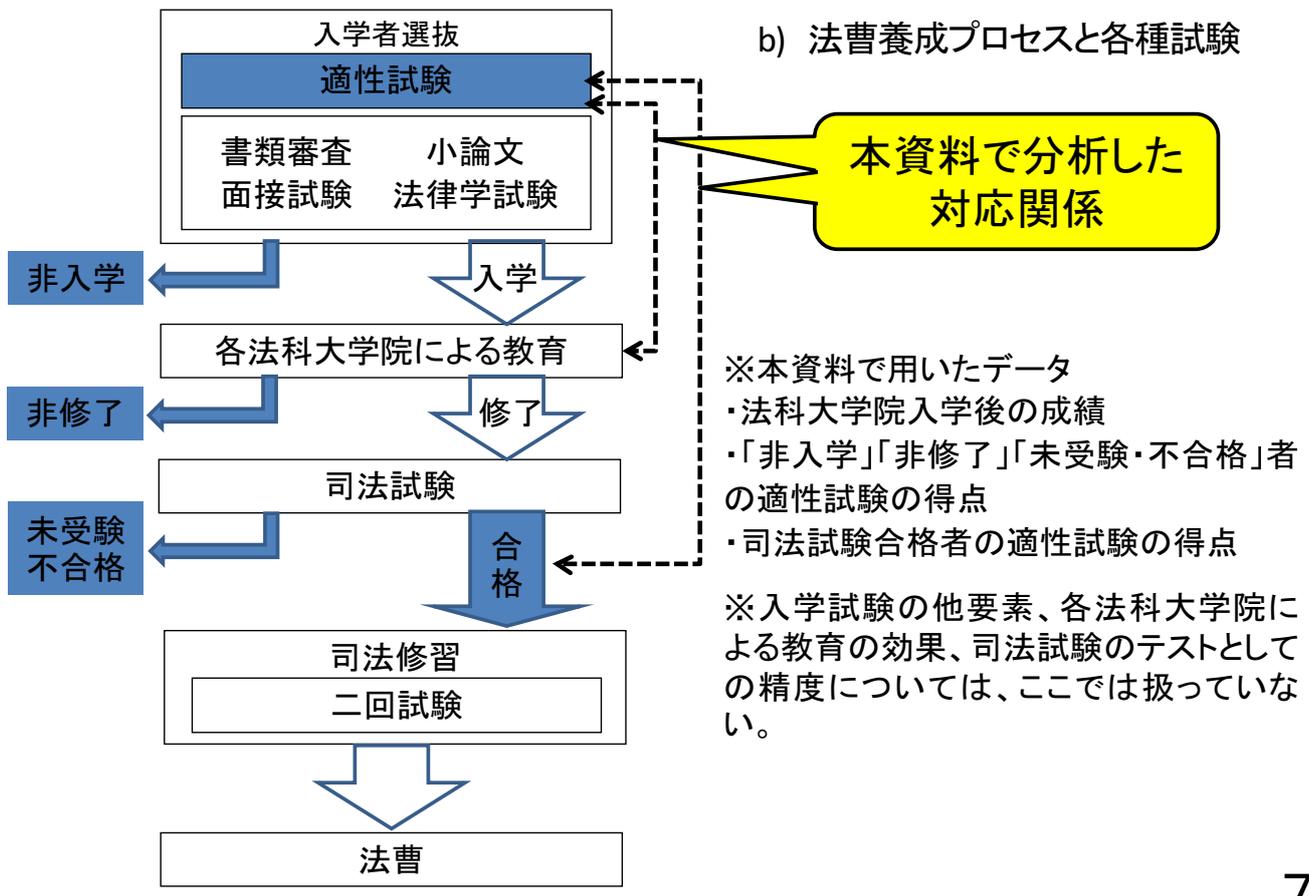


a-2) 日本とアメリカ合衆国の入学者選抜制度の違い

日本の入試(典型例)



III) (参考)入試成績と学業成績の相関関係を分析するための前提



c) 相関係数の選抜効果

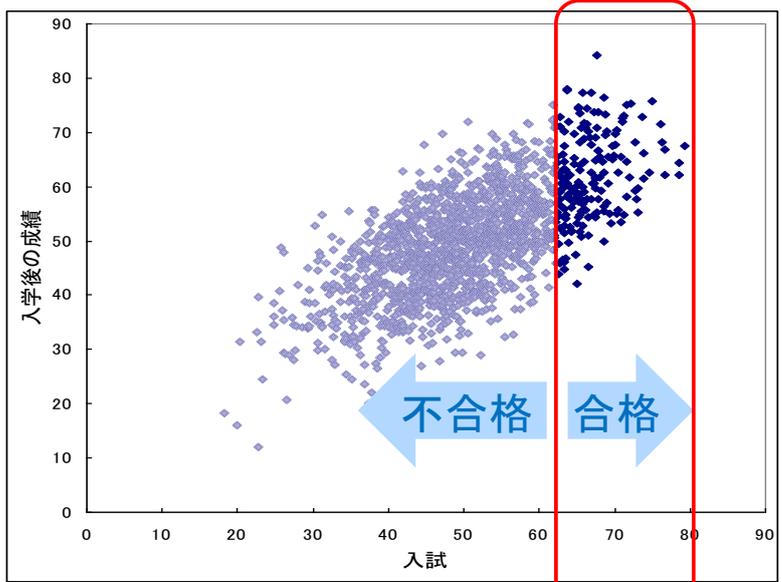
日本の医学部入学試験各科目と学業成績の相関係数の大きさの例

センター科目	平成7年度
英語	0.252
国語	0.336
社会	0.138
数学合計	-0.268
理科合計	-0.108
物理	-0.091
化学	-0.091
生物	-0.060

日本物理学会誌,Vol.55,No.8,2000,p.616

※選抜効果により、専門と関連の深い理系科目との相関がマイナスないしほぼ0になる場合がある。

選抜効果の概念図



※相関係数の計算に使えるのが学業成績のある入学者データのみのため、入学試験成績と学業成績の相関が本来あるべき相関より低く見積もられることは理論的に証明されている(選抜効果)。したがって、入学試験の一部である適性試験の予測的妥当性(学業成績との相関関係)を議論する場合にも、LSATと同様、すべての受験者が入学したと仮定した場合の相関に統計的に修正する必要がある。

参考：適性試験受験年と司法試験受験年との関係

適性試験 受験年	法科大学院 入学年	法科大学院修了年※ (司法試験1回目受験年)	
		既修者	未修者
2003(H15)	2004(H16)	2006(H18)	2007(H19)
2004(H16)	2005(H17)	2007(H19)	2008(H20)
2005(H17)	2006(H18)	2008(H20)	2009(H21)
2006(H18)	2007(H19)	2009(H21)	2010(H22)
2007(H19)	2008(H20)	2010(H22)	2011(H23)
2008(H20)	2009(H21)	2011(H23)	2012(H24)

※既修者は2年，未修者は3年で修了した場合。